

Q. 12 机間指導時に気を付けることは何ですか。

A. 机間指導は、子どもの状況をつかむことが大きなねらいとなります。一斉授業の場面では、子ども一人一人がどこでつまずいているのか、どんなことを考えているのかということ把握することがとても難しいものです。また、グループ活動の場面においても、子どもがどのようにかかわり合っているのかを一度に把握するのは不可能といってよいでしょう。

そこで、机間指導をすることで一人一人の状況やグループ活動の様子をつかむことが必要になってくるのです。この時に大切にしたいことは、授業展開に応じて、明確な意図をもって行うということです。ただ何となく子どもたちの席をまわるようなことでは、机間指導の意味はありません。何のために机間指導をするのか、その意図によって対象となる子どもも当然違ってくるのです。

○学習内容の個別支援をする

適切な個別支援を行うために、子どもに寄り添って様子を観察することは、とても大切なことです。学習課題に対して、どこでつまずいているのか、どこまで理解しているのかなどをつかんで個別に支援をします。そのためには、一人一人の実態把握が日常からなされていないといけません。また、つまずいている子ばかりではなく、理解が早い子やグループに対しても状況に応じた支援が必要になります。

○学習課題に対する子どもの考えや活動を把握して次の展開に生かす

学習課題に対して、一人一人の子やグループがどのような考えをもっているのか、活動をしているのか等を把握して、次の学習活動や展開につなげることが大切です。例としては、机間指導の後で、まわりの手本となる考えや活動を紹介したり、相反する意見の子どもを意図的に指名したりすることが考えられます。そうすることで、日ごろは発言の少ない子どもの意見を取り上げることもつながります。

○子どもを励ます

一斉授業では、子どもたちと個別に話す時間は限られてきます。そこで、机間指導の中で、一人一人への肯定的な声かけをすることによって、子どもたちのやる気を育てる時間にもなります。



押さえないポイント

- ① 順番を考える…机間指導をする時には、ランダムにまわるのでは効率が悪くなります。限られた時間でどのようにまわるのかをあらかじめ計画しておくといよいでしょう。
- ② 声の大きさを考える…個別指導は小さな声で行うのが基本ですが、他の子のヒントになったり、その子のよさを広めたりしたい場合は、学級全体に聞こえる声で言うことも必要です。【Q. 9 参照】